

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会第61回定例会・会議録

日 時 平成20年7月2日(水)

場 所 柏崎原子力広報センター 研修室

出席委員 新野、浅賀、池田、伊藤、伊比、加藤、上村、川口、久我、佐藤、三宮、高橋(武)、高橋(優)、武本、中沢、前田、牧、宮島、吉野、渡辺委員
以上20名

欠席委員 相沢、金子、種岡、中川委員
以上4名

その他出席者 原子力安全・保安院 加藤審議官 御田安全審査官
柏崎刈羽原子力保安検査官事務所 今井所長 大嶋副所長
嶋崎保安検査官
柏崎刈羽地域担当官事務所 沼田(前)所長
七部(新)所長
新潟県 大川原子力安全広報監 大谷主任
柏崎市 須田防災・原子力課長 名塚課長代理 阿部主査
刈羽村 名塚参事 飯田副参事
東京電力(株) 高橋所長 長野副所長 伊藤技術担当
磯貝技術総括部長 菅井第一運転管理部長
土田ユニット所長 村山土木建築担当 小林建築GM
森地域共生第一GM 阿部副長 杉山副長
(本店) 工藤原子力・立地業務部長
上津原技術・広報担当
山下中越沖地震対策センター所長
ライター 吉川
柏崎原子力広報センター 押見事務局長
石黒主事 柴野(弘) 柴野(征)

◎事務局

お疲れ様です。もう1分ほど定刻までお時間があるようですけれども、資料確認の方から始めさせていただきたいと思いますので、ご了承いただきたいと思います。

それでは、資料確認と申し上げましたが、その前にまたいつものようにお願い事をさせていただこうかと思えます。一つは携帯電話、またマナーモードに設定をお願いしとうございます。それから特にプレス関係者といっは何なんですけれども、ご自分で録音機等をお持ちになっておられる方がおられるかと思えます。4番グループを私どもで使用しておりますので、それ以外のチャンネルでご使用いただいて、ご自分の席でお願いをしたいというふうに思えますので、ご協力のほう、よろしくお願ひいたします。

それから、いつもマイクの調子が悪いということで皆さんに大変ご迷惑をおかけしております。今までも業者の方を呼んでテスト等をいたしまして、やはりマイクのスイッチを切らないで複数のマイクが入っていると雑音が入ったり、あるいは音が出なくなったりということが原因のようでございます。ただ全く全員の皆さんがおられる、あるいはカメラ等々の機材が電源が入っているという状態ではございませんので、何がという特定はなかなかできないんですが、ご発言になるときにスイッチを入れていただいて、終わりましたら確実にスイッチを切っていただくということで、面倒ですがご協力を願ひしたいと思えます。

それでは資料確認をさせていただきます。最初に、左側といいますか、正面に置いてある資料で、本日の次第でございます。それから次は保安院さんの、前回定例会以降の資料ということですが、1枚、今準備をいたしておりますので、準備でき次第、お配りをさせていただきますと思えます。同じく保安院さんの耐震バックチェックにおける各原子力発電所の基準地震動Ssについてと、新潟県の前回定例会以降の行政の動き、委員の質問・意見等、東京電力さんの第61回「地域の会」定例会資料と、それから申し忘れてましたが、委員の皆さんには、これは委員さんだけが、いつものように質問・意見等をお聞かせくださいという小さい紙が配られております。

右側の方ですが、こちらの方は委員さんだけでございます。保安院さんの兵庫県南部地震以降のという資料、それから同じくカラーで耐震安全性に関するIAEA国際ワークショップ、それからもう一つ原子力安全委員会における耐震安全性の検討云々という資料。それからもう一つ、今日その他の項目でお話をさせていただきます委員さんの県外視察についての概要という資料でございます。

以上でございますが、お手元がないという資料、おありになりましたら恐縮ですが、挙手願ひしたいと思えますが、よろしゅうございましょうか。

(なし)

◎事務局

今ほど保安院さんの今1枚の資料、お配りをさせていただいている状況でございます。

それでは、会長さんのほうに進行をお渡ししたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

◎新野議長

今日は61回を迎えます定例会をこれから開かせていただきます。よろしくお願ひい

たします。

委員さんには事前にご案内はしてはいますが、今日はちょうど何の一段落もしていませんけれど、随分技術的なことをいろいろお聞きしてきましたので、この辺でちょうどいいタイミングだろうということで、運営委員会に諮りまして、技術的とか数字とかというものでない、もともと私たちに求められています住民としてどう考えるのか、感じているのか、どういうことを求めるのかというようなことで、言葉に置きかえて手短かに、できれば全委員さんから発言をしていただいて、委員同士のディスカッションもそれこそしていただければと思っていますので、オブザーバーの方とやりとりするということよりは、委員同士で十分に話し合う姿を、またオブザーバーの方にお伝えできればと、間接的にお伝えできる場になればと思っていますので、その後後半でまた普通の質疑、今までどおりの質疑の時間もありますので、今日は有効にまた時間を使っていたきたいと思います。

早速1番の定例会以降の動き、お願いいたします。

保安院さんからお願いいたします。

◎今井所長（柏崎刈羽原子力保安検査官事務所）

原子力保安検査官事務所の今井でございます。メンバーちょっと顔なじみになりましたので、今日ご紹介を割愛させていただきます。

お配りしております、前回定例会以降の原子力安全・保安院の動きということで、幾つか項目がございますが、ちょっと項目を絞ってご説明したいと思います。3点ございます。

まず1点目ですけれども、6月14日に岩手・宮城内陸地震が発生いたしました。その際8時43分の発生だったんですけれども、9時半には原子力安全・保安院のほうからプレス発表を行い、14日、15日の両日におきまして、女川、福島第一、福島第二原子力発電所の状況につきまして、延べ11回のプレス発表を実施いたしました。また、政府調査団機で加藤審議官ほか3名を現地に派遣しております。原子力発電所のほうは、安全上問題なかったんですけれども、停電等がありましたので、現地に行ってその状況を調査するといったことをやっております。

それから2点目ですけれども、地元での開催ということで三つございます。一つ目がIAEA国際ワークショップ、それから住民説明会ともう一つは調査対策委員会の下に原子力防災小委員会火災防護ワーキンググループというのがありまして、これについても24日第2回ということで実施しております。

まず1点目のIAEA国際ワークショップについては、中越沖地震で得られた我が国の知見について、世界各国に対して情報提供を行うとともに、各国の代表者の方にいろいろ議論をしていただきました。今日委員の方の皆様にはお手元に三つほど資料を配付させていただいております。こちらの事務局の方からご要望がありまして、比較的わかりやすい資料ということで、加藤審議官から説明した資料、それから原子力安全基盤機構から説明した資料、それから入倉先生の資料等ございますので、もしお時間等ありましたらご覧いただければと思います。

それから28日には住民説明会を実施させていただいております。こちらホームページで当日の状況は提供してございますので、お時間ございましたらご覧ください。そ

れから24日、火災防護ワーキンググループということで、原子力発電所の火災防護対策について現在も議論を続けてございます。24日、現地に実際に委員の方々に入っただいて、現場視察をしていただくとともに、防災センターにおいて審議を行いました。

それから3点目ですけれども、調査対策委員会の開催の中で、27日に地震・津波、地質・地盤合同ワーキンググループを開催してございます。こちらの報告の中で、ちょっとすみません、先ほどお配りしましたこちらの資料がでございます。その二次元探査、三次元探査ということで、これまでお話が何度か出てきているかと思うんですけれども、保安院のほうで海域の調査を実施した内容について、ワーキングにおいて報告がなされております。ちょっと見ていただいて、右下の四角い枠の中にピンク色の線でしま模様のもので、ちょっと少しずれた形であるかと思えます。こちらの海域を調査した結果が上のほうに記してございます。何と申し上げたらよろしいかちょっとわからないですけども。

三次元探査だと例えばロールケーキとかバームクーヘンみたいなものを、直接その実態を調査できるんですけれども、そうは言っても二次元調査でもロールケーキ、バームクーヘンをスライスを細かく、細かくやることによって、その層の状態というのがよく見えてくると。より密にやることによってより精緻な情報を得られたという、そういう状況を記してございます。今後、追加調査を実施していく予定でございます。その四角枠囲いの中にさらに緑の枠で、ちょっと斜めの台形のものでございますけれども、この地域全体を調査するというのではなくて、この中から委員の先生にご検討いただいて、幾つかの測線について我々のほうで追加調査を行っていく予定でございます。具体的なその調査測線については現在検討中でございますので、また詳細等決まりましたらこちらでご報告したいと思っております。

それから、もう1枚の資料を配付させていただいております。こちら委員のほうからほかの発電所の解放基盤表面の基準地震動 S_s についてということでご質問をいただいておりますので、資料を今日は参考ということで配付させていただきたいというふうに思っております。

以上、3点プラス質問に対するご回答ということで、原子力安全・保安院からの報告でございました。

◎新野議長

ありがとうございました。

では資源エネルギー庁さんお願いします。

◎沼田（前）所長（柏崎刈羽地域担当官事務所）

資源エネルギー庁柏崎刈羽地域担当官事務所の沼田でございます。

事務所のほうから事務所長交代のお知らせを申し上げます。私2年間にわたりましてこの事務所長を務めてまいりました。6月30日付で原子力安全・保安院、東京にあります本院のほうに異動となりました。2年間大変ありがとうございました。2年間、この会に出させていただきまして、皆さんの発電所に対する思いですとか、触れまして、大変勉強になりました。ありがとうございました。

本日、新所長になっております七部が参っておりますので、ここであいさつさせて

いただきます。ありがとうございました。

◎七部（新）所長（柏崎刈羽地域担当官事務所）

沼田の後任で参りました七部清人と申します。早く柏崎に慣れまして、この会にもこれから出させていただきます、皆様のお声というものを真摯に東京のほうに伝えたいと思っております。どうぞよろしく願い申し上げます。

◎新野議長

ありがとうございました。沼田さん、長い間ありがとうございました。

じゃあ新潟県、お願いいたします。

◎大川原子力安全広報監（新潟県）

それでは新潟県の原子力安全対策課の大川でございます。前回定例会以降の行政の動きということで、1枚紙、裏表でございますけれども、持ってまいりましたので、説明させていただきます。

まず1番、安全協定に基づく状況確認でございますが、書いてあるとおり3回にわたって状況確認を行っております。2番目といたしまして、技術委員会、小委員会の開催でございます。6月11日に第6回の地震、地質・地盤に関する小委員会を開催いたしました。主にこれは基準地震動が発表されました後の委員会でございますので、基準地震動について議論を行ったということでございます。

次に6月23日に第7回の地震、地質・地盤に関する小委員会を開催いたしました。この委員会では特に海域、F-B断層についての議論を中心に行っておったところでございます。裏を見ていただきまして、設備健全性、耐震安全性に関する小委員会でございますが、6月19日、第4回の委員会を開催いたしました。主に柏崎刈羽原子力発電所7号機の建物・構築物に関しましては、議論をさせていただいたということでございます。

今後の予定でございますが、「地震、地質・地盤に関する小委員会」7月14日、「設備健全性、耐震安全性に関する小委員会」7月24日に予定してございます。なお、その下の※印で書いてございますが、これまでの小委員会における論点をまとめたチラシを作成しておりまして、7月4日に皆様のところにお配りするという予定でございます。次、3番目でございますが、先週でございますけれども、6号機で制御棒の結合不良というトラブルが発生いたしまして、これにつきまして安全協定に基づき県では通報を受けまして、プレス発表をいたしました。またあわせて技術委員会の委員からのコメントをいただき、プレス発表をさせていただきました。

以上でございます。

◎新野議長

ありがとうございました。市と村はよろしいですか。ありがとうございます。では東京電力さん。

◎長野副所長（東京電力）

東京電力の長野です。ご報告の前に本日の出席者でございますが、いつもどおり発電所長以下、2列目全員東京電力でございます。新顔だけご紹介をします。ユニット所長の川俣の後任で、土田でございます。

◎土田ユニット所長（東京電力）

土田と申します。よろしく申し上げます。

◎長野副所長（東京電力）

それから当社の事務局として守というグループマネージャー、今回異動いたしまして、その後任でまたまた森でございます。

◎森地域共生第一GM（東京電力）

森でございます。よろしく申し上げます。

◎長野副所長（東京電力）

よろしくお願いたします。

それでは、お手元の資料、ご覧いただきたいと思います。前回以降の動きということで、不適合関係からでございますが、公表区分Ⅰが2件ございました。1件目は先ほど新潟県さんの報告でも触れられておりましたが、6号機において制御棒駆動機構と、制御棒の結合不良があったということでございます。5ページをご覧ください。下にページ振ってございます。これ発表分でございますが、6号機は地震の前から定期検査に入っておりますが、先月の6月2日からこの制御棒駆動機構、全部で205体あるんですが、その後その205体について作動試験を行いました。6月27日にそのうちの1体の制御棒駆動機構と制御棒が結合していないということがわかり、お知らせをしたものでございます。現在、原子炉の中には燃料はございませんので、安全上の問題はございません。また、残りの204体についてはきちっと結合しているということを確認してございます。今後、詳細に原因を調査いたしまして、また皆さんにお知らせをしたいと考えております。

それではまた最初のページに戻っていただきたいと思います。昨日でございますが、1号機のタービン建屋の地下2階、管理区域でございますが、火災の発生がございました。これは溶接に使う溶接棒を電気乾燥機、皆さんのご家庭にある冷蔵庫と同じぐらいの大きさの電気の乾燥機でございますが、その中で溶接棒を乾燥させていたところ、異臭がしたということで、その乾燥機を開けたところ、発煙が確認されたと。その作業をしていた者が消火器で消火をしたというものでございます。原因については、この乾燥機の中にあつた可燃物が加熱されて発煙したものと推定しておりますが、現在詳細に調査をしているところでございます。これについてもお知らせをまたさせていただきたいと思っております。

それからその次、公表区分Ⅲでございますが、3件ございました。1件目は油漏れでございます。これは弁の点検のときに、油を十分抜いていなかったということで残っていた油が滴下したというものでございまして、すべて堰の中にとどまっている、量は1.5リットルでございます。これについては7ページにまとめてございますので、後ほどご覧いただければと思います。それから二つ目でございますが、病人の発生がございました。熱中症でございます。これから夏場にかけて注意喚起を図っていきたいと思っております。

三つ目、協力企業の作業員の計画線量を超える事象の発生についてでございます。これについては8ページをご覧ください。委員の皆さんに発電所を見学していただくとき、管理区域に入るときAPDという四角い金属の、どれぐらい見学中に放射線を受けたかというのを首からぶら下げて入っていただきますが、発電所で働く人たちは、あらかじめ

めそのAPDに当日の作業で受ける線量というのを登録して中に入ります。清掃していたわけなんですけど、当初予定をしていた0.9ミリシーベルトというものを超えて作業をしてしまったというものでございます。これは予定していた0.9ミリシーベルトの9割に達すると、警報が鳴るようになっているんですが、警報が鳴ったらすぐ管理区域から外へ出るということになっているんですが、複数で狭いところでの作業だったものですから、本人は別の人の警報が鳴ったというふうに勘違いをいたしまして、その別の人を管理区域から出るようにというふうなことで、本人は作業を続けたために、1.01ミリシーベルト、1日の量でございまして、放射線を受けたということでございます。今後の対策については、一番下のほうにまとめてございまして、警報が鳴ったときには、すみやかに自分の線量計を確認すると、退域をします。それから警報が鳴ったことが働いている人たちがわかりやすくするために、その警報が鳴る時間を長くするというようなこともこれから検討してまいりたいというふうに思っております。

続いてまた最初のページに戻っていただきまして、一番下でございまして、その他発電所に係る情報ということで、発電所に防災安全部という新しい部を設置いたしました。9ページにまとめてございまして、ご覧をいただきたいと思っております。

目的は自然災害ですとか原子力防災などにかかわる危機管理体制の強化ということでございまして。地震の発生以降、化学消防車の配備ですとか、防火水槽の設置ですとか、そういった対策、それから初期消火体制の整備等、順次進めてきているわけですが、今後につきましても防災安全部を中心といたしまして、一層災害に強い原子力発電所の構築を進めてまいりたいというふうに考えております。

次に2ページをご覧ください。こちらには週に1度発電所の地震後の点検復旧作業の状況と不適合について、お知らせをしておりますが、それぞれお知らせをしたプレス分を10ページ以降に添付してございまして、後ほどご参照いただければと思っております。それから3ページをご覧ください。3ページには国の部会のほうへ、当社がいつ、どんな内容を説明しているかということをもとめたものでございまして。4ページをご覧ください。4ページには新潟県の技術委員会のほうにいつ、どういう内容をご説明したかというものをまとめてございまして。

以上でございまして。

◎新野議長

ありがとうございます。今までのこの前回からの動きの中で、委員からの質問、意見とかがありましたら、お願いしたいんですが。吉野さん、お願いいたします。

◎吉野委員

吉野でございます。先ほど電話の質問に対する答えということで、解放基盤表面のデータについてということで、バックチェックのS sについてということで、保安院さんからご回答いただいたんですけども、私がちょっと意図したのは、この前の東電さんとかの説明で、マグニチュードとかの地震の規模に比べて非常に揺れが大きかった、その理由として、軟弱な地層が厚かったんじゃないかということをおもいましたんで、解放基盤表面までの深さですね、それを特にこの柏崎刈羽が深いんじゃないかと思いましたが、全国の原子力発電所と比べてデータが欲しいということをご質問したんですけども、なかなか食い違ったみたいですので、保安院さんにじかにでも解放基盤表面ま

での深さが、それが結局軟弱地盤の厚さを示していると思いますので、全国の原発と比べてどうなのかというご回答をいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

◎今井所長（柏崎刈羽原子力保安検査官事務所）

すみません。行き違いがあったようで申しわけございません。ちょっと深さのデータにつきましては確認いたしまして、出ているようでしたらきちんとまとめましてご報告させていただきたいと思っております。

◎新野議長

一つ解説を加えさせていただくと、地域の会でオブザーバーの方に資料請求をする手続きなんですけど、基本的には定例会かもしくは定例会で発言ができなかった部分の文書をもって提出していただいて、それを運営委員会にかけまして、会の全体の要請として資料請求をするべきかというような一つワンクッション置かせていただいて、請求するというのが本来の手続きでした。今回お電話でいただいたりして、先回も運営委員会でそのお話が出て、どういうふうに扱うかという協議はさせていただいたんですが、保安院さんがすべてをやると非常に時間的に大変な作業になるのか、何かそんなふうなお話だったので、私どもとすれば全委員の意向でまだないので、簡単にお答えできる部分で結構ですというふうにしてはしよってしまった部分で、ちょっと行き違いがあったのかなと思うんですが。今後も資料請求というのは個々の委員が、すればすべていただけるというよりは、会の総意として、こういうものをいただくことに何の不都合もないというようなことでしたらお願いして出させていただきますし、場合によってはそれは要求が強ければまたどこかで調整していただくということで、資料というのはそういうふうにして出させていただくという手続きになりますので、よろしく願いいたします。

じゃあ、今の件は保安院さんがちょっと調べてくださるということですので、ほかに何かよろしいでしょうか。また最後のほうで思い出したようなこととか、ありましたらまたじゃあお願いすることにして、じゃあここで一応閉じさせていただいて、（２）に移らせていただきます。

これはどういう表現をするかですけれど、委員の所感というのは、日ごろどういうふうに、日ごろというのはこの地震後特にですけれど、そういうようなことで私たち今の段階ですよ。これからまたいろんなことを教えていただいてわかっていくわけですので。それがありましたら、その次にはまた別の考えとか感じ方が当然あるわけで、今現在においてそれぞれが多少認知度も違うかもしれませんし、情報量も違うんですけど、一般住民というのはこんなものだろうと思いますので。それでも私たちのほうが多少いろいろ情報は得られる立場にあるので、それぞれのお立場、地域の代表の方とかいらっしゃいますので、そういう方がそのお立場でどういうふうに安心というものを考えるのかなというのをちょっとお聞かせいただきながら、その後また委員さん同士で自分はこう考えるとか同感するとか、いやいやそれはちょっとというような、委員同士の意見に発展するといいなと思っているんですけど。時間が限られますけれど、おおむね今が19時半なので、1時間程度そんなふうな発言をいただいて、その後またそれに縛られない発言もおありでしたらお聞きしますので、それで21時を目指させていただきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。一つでも有意義な意見、要するに住民と

して専門家でない立場での何か感想を発信していただけると非常にありがたいなと思っていますので、よろしく願いいたします。

皮切りが難しいですかね。例えば今、新聞紙面をいろいろにぎわせていますし、県の小委員会というのもやられていますし、国でもいろんな評価もされていますし、それぞれの推薦母体でも勉強会や話し合いや何かの情報交換があるんじゃないかと思うんですが、そういう中で自分はこういうことがわかるとより安心だとか、こういうことはどうなんだろうかというようなふうにして、今現在ですので、この後こういうふう意見を出すことで何かにつながればいいなという期待があるんですけど。もっとこういうことを解説してもらえばありがたいとか。専門的なところはそれぞれ国とか小委員会が一生懸命やっけていらっしゃるので、それはしばらく後にはいろんな報告や説明がいただけるんだろうと思いますので、私たちはまた別の視点から発信ができるといいなと思うんですが。

◎中沢委員

中沢です。私は6月26日の新聞報道を見てちょっとびっくりしたんですが、検査制度の改正というか、そういうことについてなんですが、今回保安院が原発の定期検査の間隔を延長する制度を導入しようと、そういうための省令の改正案を承認したという新聞の報道がありました。そして、この制度を年内にも導入する方針だというようなことですが、この制度は、昨年の中越沖地震の後で保安院が導入を決めまして、その後は今年4月に実施するということだったらしいんですが、自治体や住民の反発が非常に強くて、導入を見送ったというような経過があるということです。自治体の反発の内容については、効率や稼働率向上ではなく、安全を最優先にすべきだというようなことや、納得できる科学的根拠を示して住民に説明してほしいというような批判の声が多く出たというようなことと、また定期検査の間隔があくと、点検に伴う地元への経済効果が減るとような声も出たというようなことです。

保安院はこの新聞の内容によると、その後、検査制度の説明をいろいろ地域の住民なんかには繰り返し実施してきたと。そして理解が得られたんだというようなことなんですが、本当に説明会が実施されて地元の住民や自治体なんかで理解されているのかというようなこと、私非常に疑問に思うんです。私の知る限りではなかなかやられていないような、4月以降にはほとんど説明会というようなことは開かれていないようなふうには思うんですが。そして本当にこの制度に対する住民の理解というのは、自治体の理解もやはり得られていないというふうには思います。今、柏崎刈羽原発が地震後1年が経とうとしているわけですが、今でさえ機器の点検が不十分だというふうには思います。安全性については住民の不安感が非常に大きく、運転再開には私はほど遠い状況にあるというふうには思います。

こういう状況の中で、再度この保安院がこの時期に定期検査間隔延長の方針を出したということが全く理解できなくて、私は非常に疑問に思っております。また、検査制度の改善という中でも、運転中の検査を充実強化していくというような方針も出されているわけなんですが、4年前の美浜の原発3号機で運転中のタービン建屋に105名の作業員が入って定期検査の準備をしているという中で、破れた配管から蒸気や熱湯が噴き出して5名の方が亡くなられたというような大事故が起きているわけですが、これ

も効率や稼働率を優先した安全性を軽視してきた結果だと思いたいますが、こういう本当に運転している建屋の中で、今度いつどういう事故が起きるか予測がつかないということが非常に多いのではないかなと思います。そういうことから、運転中の検査というのは、大変私は危険が伴うということと思うんで、絶対にしてはならないんじゃないかなというふうに思うんですが、この制度の改善についての保安院に再考を求めたいというふうに思います。それからこの運転制度ですね、定検の間隔の延長ですね。地域の会として議論をしまして、会としての考え方、意向をまとめまして、国に提言するような、そういう形に私は持っていけないものかなというふうに思っているんです。

以上です。ちょっと長くなりました。

◎新野議長

はいありがとうございます。中沢さんはそういうお考えで、今そういうふうに思っているということですので、これに関するなんかご意見がありますか、ほかの方で。ご自身の1～2分の意見とは別にしても。

◎川口委員

私は今まで保安院からの説明の中で、詳しい数字とかそういうのはわかりませんが、どっちかという飛行機の離陸とか着陸と一緒に、原子力が動かす起動時と止まるときのほうが、普通に動いているときよりも危険なところが多いんだというふうにとっています。それが事実かどうかはちょっとはっきりはわかりませんが、ただ本当に点検中にやったほうが安全なものもあるのであれば、それでも私はいいと思うし、何が何でも点検中がだめということはないと思っております。

◎新野議長

前田さん。

◎前田委員

前田です。実は先日、保安院さんの説明会を聞いていました。そうすると、やはりお立場お立場で当然発言が賛成、反対に分かれてあるわけなんですけれども、その反対する人たちが非常に私の主観的な感覚ですけれども、もう原子力をやめろ、なくなれというためにやっているとしたかと思えないような発言が非常に多いと思うんですね。私はこの地域の会というのは、それはそれとして、地域住民として私どもの安全を少しでも担保する意味で前向きなところの話し合いをやっぱり重点的に考えるべきだと思うんですよ。

振り返ってIAEAの海老沢さんでしたか、JNESさんの方の説明なんか聞いたんですけれど、あ、なるほどなとちょっと腑に落ちたんですよ。それは地質の問題に関して、地質がいいから原子力があっていいんだとか、そんなことを言うつもりはないんですけど、地震の結果としての調査がいかにか妥当で、なおかつその妥当な範囲内のものをどう評価して結論として今、自分たちがこういうことを考えていると。要するに断層の長さも最大限に見積もるし、それから通常だったら半分ぐらいで済んだはずの揺れが大きくなったということに関して論理的に説明がつくから、だから振り返って建物のこれからの話になるんでしょうけども、今後補強とかそういうものにもベースになるデータがちゃんと妥当なものが得られるよという説明だったと思うんです。

そういうのを聞いたときに、やっぱり当然ながら国は推進だから、そういう話しかしないわけで、地質がこうだから、もうこれは原子力はやめたほうがいいとか、そういう

話は別だと思うんです。

何を言いたいかというと、やっぱりもう少し明確にして、確かにいろんな問題はあるかもしれないけれども、地域の会では安全性を担保する上で、やり方がおかしいとかいうことがあれば当然どんどん言うべきだし、それから原子力に対してご意見のある人は、ここもおかしい、ここもおかしいって全部言ってもらって結構だと思うんですけども、だから短絡的に、基準地震動が出たこと自体がもう間違いだというような言い方をされる方がいらっしゃるんですけど、これはそうではないんじゃないかなと思うんですよね。ちょっとまとまらなくて申しわけなかったんですけども。所感です、最近の。

◎新野議長

まとまらないのも意見としていいんじゃないかと思います。それは前田さんの所感です。ほかにどなたかいらっしゃいますでしょうか。伊比さんどうぞ。

◎伊比委員

伊比です。ちょうどもうじき1年になりますけど、地震から。私はこの1年間にいろいろ勉強させていただきました。耳で勉強させていただいたり、自分で目で勉強したり、あるいは口でトークをまじえながらいろいろの研究されている先生方の意見を聞かさせていただきました。ここのいろいろなことを聞いて感じたことなんですけど、非常に地震によって委員が高度のことを耳にする機会が多くなったというのが非常に私の所感なんです。だから、こういうことがあっていいのかどうかというのは、これは別問題、要するに自然現象でこれは発生したものですから、私にとっては幸いにして、非常にいい地震に対する防災といいますか、そういうものの勉強をさせていただいたというのがまず一つ、私の気持ちとしてよかったなと思っています。

地震が起きたからよかったなということではなくて、勉強できたことがよかったなということなんですけど。そして、保安院さんに何度も何度も私いろいろなことを、いろいろなことというよりも一つに固執したり、あるいはいろいろの見地からお話をさせていただいたんですけど、私は一番、やっぱり勉強しなければならないことは、なぜヨーロッパのフランスという国が地震の確率が低い割に地震の先進国として非常に進んだ研究をされて、実際システムとしてプロジェクトを立ち上げて、いろいろ地震に対応することをやっている。この前のIAEAの会議でも、ヨーロッパの方々の意見を聞いていると、日本の今回の地震については、非常にすばらしい見地から我々は教えられたというふうなことをおっしゃって、これからますます対策を考えなければいけないと、こういうふうに言っておられたんですけど。

そういうのを聞いていますと、まだまだ日本の国は一つの研究部門、研究プロジェクトに固執しているんじゃないかなというふうなことを私は感じました。だからいろいろの専門家の意見を聞いて、もっとやっぱり国として一貫性のある要請をし、そして国民の生命、財産を守っていただく、これが政府行政の役割ではないかなというふうなことを広く今日は所感として申し上げておきたいなというふうに思います。

具体的には再三申し上げておりますが、加藤審議官にもあるいは御田審査官、あるいは前川総括審査官も私に対してお答えいただいたんですけど、さらにプロジェクト、地震予知のプロジェクトを進めて具体化をしていただきたい。最近今回の地震の後、すぐいろいろな地震がまた起きています。外国でもありましたし、日本の国内でもございまし

た。どういうことか言えば、まさに地震活動期に入ってきたのかなというようなことで、大変心配しておりますので、よろしくひとつお願いしたいということでございます。とりとめない所感でございます。

◎吉野委員

吉野です。前回も保安院の方に地震についての、いろいろな情報とか勉強会というようなこととお話ししたんですけども、私も中越沖地震後いろいろ勉強してみて、地学の参考書だとかそれから「日本列島の誕生」という、岩波新書とかそれから意外と灯台下暗しで、柏崎市史って市の歴史の上巻というんですかね、市史編さん室が出しているその第1編というのに非常にこの地域のことがわかりやすく詳しく書いてあった、そういうのを読んでみまして、改めて非常に感じたのは、やっぱりこの辺の地域というのは日本で最も地震の危険性が高い地域の一つだなということを感じたんですけども。非常に悪条件といいますか、そういうのを四つ、この前ちょっとお話ししたんですけど、それに含めてちょっと膨らませて一言述べさせてもらいますと、まず四つのうちの一つはやっぱりフォッサマグナの大地溝帯の地域であるということで、フォッサマグナ日本列島、東北日本と西南日本に二分する大断層帯ということで、互いに押し合っているユーラシアプレートと北米プレートの境界地域だということ、これはよく知られていることだと思うんですけども、二つ目にこれもちょっと言いましたけども、グリーンタフという、緑色凝灰岩の地域であるということで、東北日本は特に昔日本海が拡大したときに、地盤がばらばらに開いて、それで海底に沈んで、その上にグリーンタフが積もった地域だということ、その緑色凝灰岩というのは海底火山の火山灰が積もったもので、非常に水を含んで軟弱な緑色の岩石だということ。そして、先ほどの話もありました先月の岩手・宮城内陸地震でもグリーンタフの地域とそれから北上山地とのちょうど境界のあたりで地震が起きていると思うんですけども、このグリーンタフの資料ちょっといいでしょうか。これ委員の方に。グリーンタフの地図でいいのが柏崎市史にありましたんで、委員の方にお配りしたいと思うんですけど、そういう地域である。それが第2番目で。

三つ目が軟弱な堆積層が最も厚い地域であるということで、その理由をこの先ほどの「日本列島の誕生」を見ますと、昔、日本海が拡大してきてできてきたときに、日本海が最も深く、しかも長期間に湾のように入り込んでいたところがこの辺なんです、新潟地域であるということで、その辺で堆積、海の下にある時間が長くて体積が非常に厚いと。

四つ目は、これは以前来ていただいた溝上先生の資料にも詳しく書いてあったんですけども、褶曲運動が最も激しい活褶曲地帯であると。柏崎刈羽地域が太平洋プレートの圧縮力で最も激しい褶曲運動をしている、ちょうど新潟から柏崎にかけての新潟油田地域ですね、そこに含まれる活褶曲地帯であると。そのためにそのあたりが日本で最も地滑りが多い地域であるということも溝上先生もおっしゃっていますし。

こういう四つの条件を考えると、浜岡とはまた違った意味で、非常に地震に対する原発立地としては悪条件が重なっているところじゃないかなということを実感として今あります。

以上です。

◎新野議長

資料も添えていただいております。ほかにどなたか。

◎高橋（武）委員

私は地域の会へ入って1年半ぐらいになるんですが、地震ももうそろそろ1年になるんですが、それを境にということはないんですが、地域の会に入るときに思ったのは、原子力発電所とか構造的な原子力エネルギー関係もそうなんですけど、そういう勉強をするのかなと思っていたんですが、だんだん今もそうなんですけど、地層・地質・断層、なんか本末といっちはなんですけど、原子力発電所の透明性をというよりは、どうも柏崎の地形とか地層とか、そういうふうな地震学というんですか、どちらかというところ、そういうふうな勉強ばかりが多くて、こんなことを言うてはなんですけど、そろそろもう前向きなもうちょっと、これからサミットもあるんですが、地球温暖化とか原子力エネルギー政策の重要性とか、もっと大きい範囲で、活動の位置づけで柏崎刈羽がここに誘致して原子力発電所を運転していると、そういうふうなもうちょっと広いスタンスが、日本の原子力政策上どういう位置に柏崎が置かれているのかなんていうのを、もうちょっと勉強したいと思ってきているんですが、最近のこの会は特に断層が多いので、もうちょっと視点を変えていただければなと今、私の所感でございます。

◎新野議長

ありがとうございます。そういう勉強も必要ですよ。ピンポイントばかりじゃなくてね。

◎牧委員

やがて地震から1年になるんですけども、日本の国というのはどこでも地震が起きるなというふうに感じています。そこで、今17、8ですかね、原発が日本にあるんだと思うんですけども、この原発を全部やめるわけにも行かないと思うんで、今までの地震のデータを生かした、いわゆる建物、あるいは設備、そういうようなものを取り入れて、まあまあ今まであったのが直接ここに起きても大丈夫だよというぐらいの技術力をもってやっていけばできるんじゃないかというふうには私は思うんですよ。ですから、どこかの学者がいい震災の教訓になったと言って怒られた人もいるんですけども、やっぱり今までのデータを生かして、これからの新しい設備にしていって、今までの作ったものに対しては、新しい地震のデータでこれぐらいなら大丈夫だよというようなものにしていただいて、やっぱり安全を確保して日本で原発を作って、それから環境にも非常にいいわけなんで、そういうような前向きなような推進の方法をやっていただきたいんだなというふうに感じていますけれども。以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。高橋さん。

◎高橋（優）委員

高橋です。私はこの前の6月19日からIAEAの国際ワークショップがあったんですが、そのうちの20日の日のところに参加させていただいたんですが、最後のもう2時か3時ぐらいになってきたら非常に難しくなって、早く帰ってしまいましたので、交通費は要らないんですけども。この中で私ちょっと参加したときに原子力発電所の耐震設計というので、東芝の方と日立の方と三菱の方、午後はちょっと外国の方になっ

たんですけども、話をされていて、耐震信頼性の実証試験というところを四国の多度津というところでやっていたムービーが流されていて、これは非常に国の施設として重要な施設だというふうに、まずそのとき思ったんですよ。

ところがいろいろ調べてみたら、この約400億円かかっていた多度津の試験場は、例えば当時の原子力安全・保安院の佐々木院長さんという方は、こういうところで震動台等を使って実証する必要があると答えていたはずなのに、400億円と言えば柏崎市の予算に匹敵する金額、我々の税金ですよ。それを2億円ぐらいで売っているわけです。今はペンペン草が生えているそうですけれども。こういう大事な多度津の振動試験場を国といいますか経済産業省ですかね、簡単に売ってしまうと、我々の税金が本当にドブに捨てられるような形での、こういう大切な、この多度津の試験場のことは前々回の東京電力さんの方も「多度津」の言葉を出されて言っておられましたですよ。ちょっと名前忘れたんですけども。

やはりこういう実証試験、このときのムービーでは本当に荷重をかけてぶっ壊れるまでやって、今回のこのIAEAのワークショップで出た言葉は、「設計基準を超えた事象がたくさんあった」ということで、そういう意味では安全裕度があったからということになってくるんだと思いますけれども、我々はやっぱり安全な原子力発電所というのは将来目指してほしいと思っているわけですけども。そういう実証するところが我々の税金が400億円もつぎ込まれたものが2億円ぐらいで売り飛ばされるような、こういうことというのはちょっと保安院としても、保安院の院長は必要だと言っているのにそういうことになってしまっていることを私は調べてびっくりしたんですけども。やはり、実証試験だとかそういうのは必要だというふうに思います。それが私の今回のこのワークショップに出て感じたことなんです。

後で時間があれば私聞きたいと思っていますのは、一番この地震で私も関心があるのは、原子炉圧力容器がどうなっているのかということ、例えば中性子が当たりますと鉄とニッケルとでできたこの原子炉圧力容器というのは、例えばバラを液体窒素でもってつけてやるとぱりっと壊れますよね。ところが脆性遷移温度というのが上がってくる、この中性子があたって、圧力容器が弱くなってくる、この温度の変化というのが多分あると思うんですが、これを調べるための試験片を入れることは、経済産業省令にも義務づけられているわけですが、これはちょっと後で私聞きたいと思っていますので、これはこのIAEA国際ワークショップに出た感想と所感です。

◎新野議長

ありがとうございました。ほかにどなたかご意見がありますか。佐藤さんお願いします。

◎佐藤委員

私最近いろいろと考えることがありまして、ずっと考えていたんですが、かつて問題を見逃して設置許可をされたことと同じことが、また再び起こるのではないかという感じが実はしてないんです。どういうことかといいますと、端的な言い方とはにかく設置基準があつて、設計基準があつて、それを大幅に超えて大きな地震に遭ったわけですけども、とにかく止める、冷やす、閉じ込めるがちゃんと機能したんだから、今後も使えるという、ここのところが実は非常に問題だというふうに思っています。そ

もそもS2で450、今回解放基盤面で実際にあった揺れは1699とかと言っているわけですから、4倍なんです。結果的に4倍で止まったかもしれないけれども、4倍というのは作った技術屋でさえ、これは大変なことで、4倍といたら止まらないかもしれないと恐らく思っていた数字だと思うんですよね。それが結果的に終わって止まったんだからいいじゃないかと。あと補強工事すればいいじゃないかというような、そういうことになっていて、その審査をしている人たちそのものが、また設置許可にかかわった人たちがそのまんま存在している人というのはいるわけですし、この前も私が問題にしたのは、電事連から研究費をもらっている人、そしてその研究費をまた配下の人たちに配っているなどということをやっている人、そういう人たちが依然として今回の審査にも加わっているというようなことになっているそうでありますから、そういう中で当初の設置基準そのものを反故にして、やっぱり原発を動かそうという、そういう考え方が本当にいいんだろうかということが一つあります。

そして、そのことが実は中越があって、能登があって、中越沖地震があって、今回の宮城・岩手の地震があって、そしてこの次どこかで起こるかもしれないけれども、とにかく最近は頻繁に大きな地震が起きているわけですから、日本列島55基の原発がこの次どこかでやられないとは限らないわけで、そういうふうなことからすると、全国の原発も改めて洗い直さなければならないでしょうし、柏崎のようにいろんな人がいるんだけれども、一番地盤としては悪いところだというふうに言われているところです。しかも33～4年前からその問題については指摘をされてきたにもかかわらず、こんな事態になったという点では、それを完全に否定できないと思う。そういう中で、とにかく運転再開ありきというようなことで今、突き進んでいることに関して、将来日本のどこかでもっと深刻な事態が起こるのではないかという、そういう危惧を私は持っています。これはごく一般的な言い方なんですけれども。ただこれは、さっき前田さんが言われた短絡的な物の見方で言っているわけではありませんから、非常に将来的な問題としても不安が残る問題だということを申し上げたいと思います。

◎新野議長

ありがとうございます。川口さん。

◎川口委員

佐藤さんの意見もわかるんですけど、実際問題想定を超える地震が起きたということは事実だと思うし、だけでも原子力発電所自体は作用はしてきちっと止まったと。実際問題、我々柏崎の住民にとっては地震による被害が大きかったため、原子力発電所とダブっている部分がいっぱいあるんですけど、実際原子力発電所がああなったことによって、基本的には我々は何の被害も受けていないとは思っているんです。ただ要するにほかの多角的要素では間接的にはあるかもしれないけど、実際問題原子力発電所は想定を超える地震には遭ったのも事実だけれども、安全に止まったということも事実だと思っております。これから動かすに当たってはきちっとやっぱり議論をして、地盤においては僕はこの会で地盤において議論しても所詮素人集団の会だから、地盤においてはやっぱり専門のワーキンググループに任せて、それを意見を出たのを聞いて感想を述べる程度にしてもらっていいのではないかなと思いますし、それが公開でやられているということは昔と違ってすごくいいことだと思いますし、傷んだものについて傷んでない

かというものも公開で調べていっていただいて、それできちっとした数字で出てくればいいのではないかなと思っております。

◎新野議長

そろそろ女性軍はいかがでしょうか。

◎浅賀委員

地質の勉強はできて私はよかったなと思います。地震が起きてあの煙を京都から帰りながらずっと車のテレビではそれしか映さなかったですね。火災だとわかったのは後でしたし、大きな視点で言えば、原子力政策は国策だと、国の政策だから安全だと、建設当初からそう言われ続けてきて、またその間に今までの数十年間の間に東京電力のトラブル隠しや、この会ができた経緯等を考えれば、すべてその言葉どおり安全だということ、住民感情として信じることはもうできない状況だと思うんです。

私は特に反対というふうにはっきり申し上げていまして、6月28、29と反対派の住民の全国集会があったわけですが、その外巻きに40代の主婦の方が見ていらっしゃいまして、集会が終わったときにちょっと声をかけてきて、「浅賀さんって反対だったんですね。廃炉を求めているんですね。」っていうふうな声かけをしてこられました。

私は全く反対ではないんですけども、国の主張が、いわゆるトップの方が柏崎へ来て、住民と向き合ってくれなければ再開はあり得ないと私は思っていると。決して反対派ではないと。一主婦ですが、そういうふうに思っています。春、科学技術庁まで行ってきましたというような、一市民の方からも声をかけられました。それくらいに住民の感情というのはそこまで来ていますし、決して修復できる状況ではないと私は思うんです。見えるところは確かに傷が見えて、家でもそうですけれども、炉心ですとか見えない部分について憶測とか、想像でしか私どもは考えることはできないわけで。やはりそれにはどうして、もう少し数年前までは建屋さえ動かないというふうに言われたことさえあったんですね、専門家の方が。ですからそれをもう覆すような地震だったわけですので、そこは慎重に私たちは住民の一人として訴え、考えていかなければならないと思っております。

◎新野議長

伊藤さんは、お近くの地域にお住まいで、どんなふうにお考えでしょうか。

◎伊藤委員

大分欠席させていただいて、ご迷惑をおかけしましたが、今日はこうやって何か考えを言えということですので、出席をさせていただきました。

私もこの会に委員ということで推薦させていただきましたけれど、回数は大分開催されてきましたけど、私の出席率はほとんど悪かったと思います。それだからといって不勉強ということは、皆さんからこういうふうに事務局の方からいろいろ資料はいただきまして、勉強させていただきましたけれど。私の主観ですが、まずこの原発というのはこれやはり国策でやっているわけですし、また先回も私立ち会って言ったことはありますけれど、皆さんもこれ電気というのは全部どなたもみんな使っているわけですよ、何だかんだ言っても。それで言っていますし、昨今CO₂の問題やいろいろなことで騒いでいます。

だからといって今、この原発を再開という、どうなったのと。今の安心・安全ではどうなのかなという疑問はあります。疑問はありますけれど、このままでじゃあ全部日本の原発を止めていいのか。じゃあ代替エネルギーで電気が自然発電で、太陽光発電でそういったものが需要が全部賄われるのか、あるいはまたもう1点、この刈羽柏崎、今、東電さんここに来て直接やら間接やら、相当の地元の人が就職やら職についてやられると思います。これが廃炉になったり、あるいはまたほかのことになったら、この地域はどういうふうになるのか。皆さんが私どもの地域の例えば小さい部落にしても、50戸ぐらいの部落にしても、それでも10人ぐらいの人が何らかの形でそういったところへ勤めておられます。そういったものもいろいろと地域の衰退というのが、やはり雇用はどういうふうになるのかというのも考えていかなければならないなと思います。そういったこともいろいろ皆さん考えながらやっていったほうがいいんじゃないかと。

それで、地盤のことで何かにとろんなことを言われていますけれども、私どもは地盤のことにしましては素人で全くわかりません。聞いていますとちょっとわかりませんが、実際、私どもも中越地震、また中越沖地震2回遭って、中越地震のときにこれだけやればいだろうというくらいのこと、ほんの数メートルのくいを打って家を建てました。また今回の地震で壊れました。また今回のときはそのままじゃだめだから、もう2メートルも深く入れればいだろうと、そんなの言うのはほんの地球のところのほんの薄皮の面積だと思いますが、そのぐらいで自分たちはこれやっているわけですよ。

だからそういったことからすれば、それより多くもっと技術の進んだ国やそういう施設、研究所等でやっていることだから、ある程度は信頼してまず安心安全をもととして、いろんな面において条件を整えたら再稼働というのも考えてはいいんじゃないかなというふうに私は思っています。私の所感です。

◎新野議長

ありがとうございました。加藤さんはどうです。後からにしますか。どちらでも。それじゃあ久我さん。

◎久我委員

久我です。先ほど高橋君が、最近なんか地質の勉強ばかりでというのは、確かにああそう言われれば確かに半年以上ずっとなんか地質の勉強をしていて、難しい話が多かったなというのは、実はそう言われれば確かにそういう感想もありますし、でもあつという間の1年だったなというのが実は感想です。

最近ちょっと思うことが実は2点あります。2点というか、自分の中では2点あるんですけど、1点が昨今、僕はよく新聞の方たちにもバランスのとれたというか、対面だけじゃなくて、両方の意見をきちっと取り上げてくださいというお話をこの間もさせていただきました。やっぱり原発で耐震の工事が始まったということで、市民は納得していないんじゃないかという一部報道なんかもございますが、でもやっぱり期待している市民も実は僕は対面にいると思うんです。私は正直に言いますと早く動かしほしいです。やっぱり地域の疲弊された今の部分から見れば、早くきちっとした耐震工事が終わって、国・県・市・村が確認をとって、早く動かしてほしいと願っている市民の一人です。

実は、僕の後ろにもそう思っている人はいっぱいいるんですけど、なかなかその声は伝わりません。まだ声も出ていないんですけども、でも商工会議所の松村会頭なんかは

やっぱり経済界としては動かしてほしいということも公式的な場で言っていますので。僕たち推進という立場もそうなんですけども、それは安全が大前提にあるのは間違いありませんが、やっぱりそういう市民の声も実際はあるということ、ぜひとも伝えていきたいと思っていますし、また今後声を大にして言っていきたいと私は思っている一人です。

そのほかに、ちょっと悩んでいるというか、私がここ数年ですごく葛藤しているというのは、以前石橋先生の講演会を聞いたときに、石橋先生に「技術は自然に勝てないのですか」というご質問をしたら、「自然の怖さを知らないあなたが怖い」と言われて返事をされたのが、すごく実は心に残っているんです。僕はでもそうすると、すごく後ろ向きでしょうと。そんなことを言ったらお先真っ暗ですよ。電気もない、お先真っ暗の世の中になっちゃうんじゃないですかと思っています。多少電気はこれから高くなれば変える人はいます。

もしかすると、これからの食糧事情と同じで、車も燃料が高くなって車に乗らない人も増える。電気もそうなるかもしれない。そんなようなお先真っ暗なような気がして、僕はその耐震設計、それから耐震補強、それは柏崎刈羽だけじゃなくて、日本国内の原発がやっぱり保安院の指導のもとできちっとやって、そういう意見もあるんだけど、実際勝つ努力をするということは何をお願いをしたいなど。それで初めてそのコンセンサス、国策という問題が少しずつステップアップして行って、ああ原発というのは安全なんだ、安心なんだというような声が出てくるような気がするんですけども。その声を出す場であって、この地域の会に参加しているんで、できたらそういうことも今後やっていきたいなど、できたらやってほしいなどというような気持ちです。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。三宮さんは。

◎三宮委員

三宮です。原子力発電所が必要か、必要でないかという、私は必要であろうというふうに思っております。最近ですけれど、今、原子力発電所が止まっていて、困る関東とかあちらのほうの人が早く動かしてもらわないと困るよと言われてたこともありますね。言われていることが多いです、最近。原子力発電所は安全が第一ということだと思います。

この地域の会が発足した経緯が東京電力の不祥事ということで始まって、今この地震で認可がおりた基準をまた超えているということで、非常に基本的なことが多いと思うんですけども、原子力発電所が必要だという立場から考えると、まず佐藤さんが言われた信用できないという部分を回復しないことにはどうしようもないと思いますし、そのためには今、不祥事が起きたときから東京電力さんのほうがずっと進めてきた改善ですか、その辺がどの辺まで進んでいるのか、今の受け答えとかをこの会で聞いていると、非常に解放しているとは私は思っております。

それからもう1点は、地震についてなんですけれども、許可をおろした国のほうがおろした時点では、当時の知見ではあれでよかったと。今また変わってきましたと。ですけども、よかったというのとそれから常に変えていくという姿勢、変えたという今回の

基準地震動ですか、その辺もこれで今の知見の最高時ですという説明の辺がもう少ししてほしいかなというふうに思っています。

どちらにしても原子力発電所自体は、先ほど言われましたように地域の経済にとっても早く動かさなくてはいけない。そのためには国にも東京電力さんにも努力していただいて、安全、それからその努力していただく部分の大きな点は安心を得るための努力をしていただきたいというふうに思っております。

◎新野議長

少し今、安心・安全は大前提だけれどと、結構市内の方皆さんおっしゃるんだけど、それ何なんだろうといつも思うんですけど。三宮さんはちらっと具体的にご意見述べられましたけど、だんだんにはそういうふうになっていくといいな、少し頭の中が整理されてきて、じゃないと受け手の人たちが安心・安全は大前提と言われておわかりいただけるのかなという部分があるので、私たちももう少しその表現をいろいろ駆使してお伝えできるといいなと思ってはいるんですが。続いて上村さん。

◎上村委員

やっとな地震で、こういうふうな値で2280ガルで対応できるように直しますとって納得し始めていたときに岩手・宮城の地震で駒ノ湯のあたりで1800ガルと言われると、ちょっとなんかこの基準で行くと、またこんなのが来たときは、安心ということになると寂しいなという値が出てきたもので。また元へ戻っているというのが現状です。

◎新野議長

そうですね、数字を理解するというのは難しいと思います。宮島さん。

◎宮島委員

私も1年前からこの委員には入れていただいているんですが、会の名前から見て、ちょうどそのころ東電の不祥事、これを解明するのがこの会の趣旨かなと思っていました。そんなことをしているときにこの地震になって、それ以後は専ら地質と地震の話だけに終わっているような気がするんですが。私はどちらかというと原発推進というか、原発は必要だと思っております。今は我々の生活が化石燃料だけに頼っておりますが、恐らくこの化石燃料というのはあと50年で、石油については50年、ガスを使ってあと250年ぐらいいは何とか持つだろうと。それで代替するものがもうないわけです。そのためにはやはり我々の今の生活を何とか維持するためには、この原子力もしくはそれにかわる天然資源を探さなければならないと思います。

特に資源エネルギーというのはせざる条件になると思いますが、今現在、日本の自然エネルギーの利用率は世界各国の利用比率からいっても1%か2%ぐらいです。EC諸国が約35%ほど使っているんですが、日本についてはほんのごくわずかです。そんなことを言っていると、もうこれはエネルギーの減少は目の前にあるんで、何とか安全を確保した上の原子力の利用が必要じゃないかなと痛感しております。

そんなことで、今は柏崎でも原発を何とか再開するという趣旨については、やはり私も真剣に考えなければならないと思いますが、それには今のように次から次へと出てくる不安要素はちょっと考えなければならないと思います。何かやるとすぐ次の不安要素が出てきたりする。不安要素というのはやはり安全について考えるから不安要素が出てくるんで、安全の見方を根本から変える必要もあるんじゃないかなと私は

時々話を聞きながら思いついております。これからいよいよ東電さんもどのような過程をとるかわかりませんが、再開云々は別としても復旧に全力を向ける中に、その不安全要素をいち早く探そうに努めていただきたいなと思っております。それをチェックするのが我々のこの地域の会の使命かなと、ちょっと考えたりすることもあります。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。

◎池田委員

池田です。この会は今回で3回目ということで、先ほどから皆さんのお話を伺っていて、本当に正直な話、ついていくのがやっとなというふうには思っているんですけど、今日、私がちょっとお話したかったのは地震とか地盤とかいうそういうことではなくて、実は今朝の朝日新聞の経済気象台というコーナーに、2008年生まれの子供たちが8歳になる2016年には、産業革命前と比べて地球の温度が1.5度上昇し、グリーンランドの氷層の前面が溶け始める。32歳になる2040年には地球の温度は2.5度上昇し、北極海から完全に氷がなくなり、42歳になる2050年には3度上昇し、100万種もの生物が絶滅するだろうというようなショッキングな記事がありました。

私は地球温暖化防止という観点から見ても、原子力発電というものは有効なものの一つであると、いわば野球で言うと4番バッタークラスではないかと私自身は思っております。先ほどからの地震や地盤の話はいろいろ聞いていまして、聞けば聞くほどなるほどなというようにうならせる話ばかりでした。私としましては、今後は一つ一つの問題を地道に解決していくことによって、不安が徐々に解決していくのではないかなというふうに思っております。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございます。じゃあ加藤さん、お願いします。この後は武本さんかな。

◎加藤委員

私、暮らしをみつめる柏桃の輪というところから出させてもらっているんですけども、女性ばかりの本当に物やエネルギーやら、一応暮らしの中で見詰めているようなところから、去年から今年にかけて中1年くらい、いろんな方にお目にかかり、またお話を聞き、その中でもいろんなことを思いました。今日も佐藤さんが発言されたことの中で、ちょっと気持ちの中にも揺らぐところもあります。ですけど、私がいつもその話を聞くときに、あそこに原子力発電所がちゃんと建っているということが、現実としてあるわけですね。だからそういうところをどう確実として自分の中に入れていくかということは、まだまだいろんな勉強をしなければいけないというのが私の今これからの課題です。

それから、保安院さんの先日の刈羽村の説明会を聞かせていただきまして、あの中での質問をする方の質問の質が私たちにもわかるようなことだからかもしれませんが、保安院さんの、特に加藤審議官の返答がとても私はよかったと、聞きやすくわかりやすく、とてもよかったと私は思っています。ありがとうございます。

それから私は、いろんな原子力発電所のこと、この会にいろいろ聞いて、武本さんから耳にタコができるほど地層の話も聞きました。東京電力さんに一つお願いがありま

す。もう東京電力さんに本当に東京電力はここまでやってくれたのかと、ここまでしてくれただというのを私たちに見せてほしいし感じさせてほしい。そこでこれならという気持ちが生まれてくるくらい頑張ってもらいたいと思います。

以上です。

◎新野議長

じゃ武本さんお願いします。

◎武本委員

いつも最初にしゃべるのが最後になったみたいであれなんです。実は今いろんな人の話を聞いて、私が思っているのは、今日もというか、この1週間ぐらいというか、多分テレビのトップニュースはウナギのごまかしですね。こういうことがいっぱいあるんだけど、いっぱい周りでも起きています。この地震の問題は国ぐるみのごまかしになっているというふうに思えてならないんです。例えば、数字の話はあまりするのはどうかと思うけれども、さっき佐藤さんが450ガル以上の地震は考えないでいい、こういうことを言っていて、本当に1699だったかどうか議論がありますから、それが5倍、8倍みたいな、2280でどうだかみたいな話をしている、こういう話。それから近くに活断層がないことを確認しましたと東電のPR館に飾ってあったわけですよ。それを地震後隠しているそうですが、こういうこと一つ一つが全部うそだったということですよ。

にもかかわらず、当時の知見ではよかったんだみたいな、おかしな説明を聞いたときに、私は自分の子供も大分ごまかしみたいなのがわかる年になったからあれなんだけれども、小さいときに私が親から言われたのは、「うそを言うな、間違いがわかたらすぐ謝れ」これが人間の生き方の当然のことなんだろうと思うんです。なんか原子力のことは日本の国が二重基準で動いているような気がしてならないんです。例えば今回のものを姉齒の耐震偽装に置きかえれば、450以上ありません。300で設計するんですといったのが、2000になったという段階でもう解体していますよ。マンションもホテルもみんな補強したり解体しているというのが現実です。

そういうことを平気で、それでいいんだみたいなことを言ってきたのは、私はそういう意味で最初から石油関係者がこの地域のことを言っていることと、原発が言っていることが違う、どうしてなんだというこだわりをずっと持っていたわけだけれども、それが地震でどっちが本当だかというのがはっきりした段階で、それでいや間違っていましたということがあればいいですよ。間違っていました。前のは間違っていたから今後改めますということが、国からも東電からも正式には何もないんです。これでは今住んでいる人の都合で勝手に解釈をしているという、設置許可から建設のときのやり方を繰り返すことになる。

その結果がどういうことになるかと言えば、私はテレビに出たんだと思いますが、人から聞いた話で、1年前の2006年のこの地域の米が3,000トンとか売れたのが、去年の米は2,000トンしか売れていないというみたいなお話、それが風評被害だみたいな話を聞いたり、海水浴が100万人いたのが15万人になったみたいな話を、これは私が裏を取った数字じゃないけれども、こういう風評被害は今のやり方を繰り返す限り、この地域と周辺地域にずっとついてくるだろう。それは原子力教育が悪い

とかなんか言っても、そういうことを含めて私たちは原発とつき合うのかどうか、それに対して私は子供のころ親から言われたように、「うそを言うな、間違っていたらすぐに改めろ」こういう立場で、おかしいことはおかしいって言わなければならない。国だって今の原発のようなやり方をすれば、ほかの部門だったら逮捕ですよ、きっと。そういうことを今本当にみんなでやろうとしているのかどうかというのは、十分これから意見交換しなければならないと。

この地域、原発がある前はそれなりにやってこれた地域なわけですよ。そして結果として30年間原発がすっかりはびこったという事実があったとしても、それは最初のボタンのかけ違いだったらそこへ戻って、かけ直す以外にないんだらうと。特にどこかの原発の話じゃなくて、どこかのとか遠くのよその原発の話をしているわけじゃなくて、柏崎刈羽の原発の話をするのであれば、それが乗っかっている地盤が本当にどうなのか。過去において今回の地震で全部うそだったじゃないかというのは、共通のベースにして、今後の議論をしない限り、きれいごとを言ってもだめだらうというのが私の感想です。

以上です。

◎新野議長

ほかにどなたか、重ねてなお、再度のご意見、ご感想でもかまいません。

◎牧委員

風評被害という話はまだ随分去年から出ていますけども、もし私だったら地震が起きてみんなが切ながっているところに海水浴に行きますか。行かないですよ。ボランティアで行くなら別ですけども。そういうようなことから考えると、たまたま地震が起きた。だから人が来なかったというふうなことでしかないんじゃないかと思えますよ。東京電力があったからとிட்டって、前からずっとあるんだから。だからそのせいで人が来なかったんじゃないかと、みんなの前で楽しく遊ぶことができないから来なかった。私はそういうふうに思うんですよ。ですからやっぱり原発があるから風評被害でそうなったというふうな話も、それもそれだかもわからないですけども、実際に私だったら海水浴になんか来ない。私はそう思います。

◎渡辺委員

今、牧さんが言われた。私も施設を預かっている身で、実感としてそのような人のあり方だと私も思っています。一様に風評被害というようなことでは私はないと思っていますが、幸いに今年の様子ですと、2年前にほとんど戻りつつある、こういうふうな形になっていくような様子でありますので、決して風評被害とは私は考えておりません。

それともう一つ、私やっぱり西山の地で将来生活させていただきたいんですよね。さまざまこの61回の中には議論することもありますし、事象を追求することもありましたし、また勉強することも相当あったわけですけども、この直近の中では地震ということが非常に時間的に多かった。この直近の中にも中越地震も味わいました。それから中越沖と、こういうふうなことで、その段階でも各先生方に講演をしてもらったり、できるだけ我々の知見を高めようと、こういうふうなことでやってきましたが、いかにせんこの梅雨どきは非常に強烈な印象を与えた、あるいは打撃も与えられたと、こういうふうなことで議論が尽きないわけですけども。いずれにしても、安心をどの時点で

求められるかということだと思えます。国もそれから東京電力も昔の過程を省みますと、私自身は評価しているわけですし、それからもし仮に小手先のごまかしでいったならば、必ず検証される仕組みができていますから、これはもしそういうふうな形であるならば、必ず2年後、10年後、そういうふうなことはわかる仕組みになっておる。これを信じない限り、私は西山で生活することができない、こんなふうに私は考えています。

いろいろその反省といいますか、省みたいわけでありましてけれども、人を信じない限り私は世の中成り立たない、そんなふうに感じますので、やはり事業者も国もそれに応えていただけるような、そういうふうな親切といいますか、そういうふうな誠意を持った対応をしていただきたいと、このように私は思っています。

以上です。

◎新野議長

ありがとうございました。もうしばらくあるので、トイレタイムは取りましょうか。5分程度取らせていただきますので、委員さんが全員戻り次第、用を足されたら、その5分以内でもまた始めますので、よろしく願いいたします。

(休憩)

◎新野議長

再開をいたします。休憩時間内に保安院さんからの報告事項があるそうですので、お願いいたします。

◎今井所長（柏崎刈羽原子力保安検査官事務所）

大変申しわけございません。耐震バックチェックの基準地震動Ssの表を配付させていただいたんですが、すみません、柏崎刈羽の部分で今日ちょっと急遽入れたこともあり、数字が間違えてございます。5から7号機Ssは、これは1156ガルです。あと基礎版上での加速度ですけれども、こちらも号機ごとに違いますので、いずれにしましてもきちっともう一度精査しまして、提出し直させていただきたいと思えます。申しわけございませんでした。

◎武本委員

今これはこういう段階だということを確認していいんでしょうということだけ聞いておきたいんです。電力会社が保安院に上げていますと。上げたのがこれですと。それで今ほかのものも三つぐらいの部会を作ってそこで検討中ですと。そしてその途中で安全委員会だか何かから柏崎の2000を踏まえて、こういうことがないかという再注文がついているんで、変わるかもしれませんというところまで、私ではなくて今井さんから言っておいてもらいたいんですが。

◎今井所長（柏崎刈羽原子力保安検査官事務所）

はい、おっしゃるとおりでございます。あくまでこの数字、今バックチェックということで、各電力から出てきた数字でございますので、今後変わる可能性がございます。いずれ正確な数字、あるいは議論の結果が出てくるかと思えますので、その際にはまた改めて提出させていただきたいと思えます。まずは今出ているもので暫定のものをきちんとまた表にまとめ直しまして、提出させていただきたいと思えます。

◎新野議長

そうすると、どこかにちょっと添え書きがあるといいかもしれないですね。保安院さんの名前でこういうふうに出てくると、また誤解を生じるので。これが要するに各電力が調査した数字であるみたいなコメントがあったほうが、きっとやりとりの上で。またちょっと研究したり、調査してみてください。お願いします。

もう時間が15分ぐらい程度ですけれど、今までのことの延長でもいいですし、せっかくのオブザーバーさんいらしていますので、1、2問もしお尋ねが、武本さんの今のようなお尋ねが今このタイミングでお伺いしたいようなことがあれば。なければその他に移りますので。

じゃあ3名の方でよろしいですか。時間が押していますから、手短にお願いいたします。

◎中沢委員

中沢です。私前からちょっと疑問というか、わからないというようなことで、勉強不足なんですけども、ちょっと教えてほしいんですが、私が疑問に思うのは、原発と活断層という問題なんですけども、原発は活断層の上に作ってはならないというふうに、私は今まで聞いてきたんです。そういう決まりがあったのではないかなというふうに思うんですが、私、ここに電事連のパンフレットがあったので持ってきたんですが、この中に「原子力発電所の耐震対策」という中で活断層の上には作らないと、建設用地を決める際には設置予定地のボーリング調査、周辺の地質調査、過去の文献調査などを行い、地震等の原因となる活断層を避けていますというふうに書いてあります。本当にこういうふうに電事連でも言っているわけで、保安院もそのように今までパンフレットの中では紹介していると思うんですが。現実には、柏崎刈羽原発の直下には活断層が存在するというようなことがわかっているということなんですけども、本当にそういう点ではこういうパンフレットとは食い違っているというか、本当にこのパンフレットのようにはないわけですね。

本当にこのパンフレット自身が間違っているのか、実際に活断層の上に作ってはならないという、そういう決まりがあるものかどうかというのが、私は正確にわからないので、保安院の方にちょっとそこらの詳しいことをお聞きしたいと思っているんですけども。

◎御田安全審査官（原子力安全・保安院）

設置許可の安全審査のときには、敷地周辺の活断層調査をするとともに、敷地内につきましても、断層の有無について当然調査します。その断層についても活動性のある断層であるのか、また活動性のない断層であるのかを調査します。

電事連のパンフレットが、いつ頃のパンフレットのことかわからないのですが、どうも表現の仕方が非常に誤解を招くということで、同様の質問はいろいろなところでも受けています。我々がもともと説明したかったのは、活断層が原子力発電所の乗っている基礎マットの直下に出るようなところには作らないということです。いろいろな敷地内の調査をして、いろいろな断層の調査をいたします。当然その断層の活動性とかも含めて全部調査します。そのときにそういうような活動性のある断層が、基礎マットの直下に出るようなものを避けるような形で、どこの原子力発電所もそういう形で建設されて

おります。そのときの言い方が、「活断層の上に作らない」というような言い方をしてしまったものですから、いろいろな方からそのようなご指摘を、我々いろいろ受けておりますけれども、我々としては、必ず基礎マットの下には直接活断層が存在しないということを確認して、原子力発電所の設置許可を行っております。

◎中沢委員

ちょっと私もわからないんですけど、その基礎マットというような言葉なんですが、基礎マットというのはどういうことを指しているのでしょうか。どれぐらいの深さを指しているんですか。それでやはり活断層が見えないというか、現実には表面に出ていなければいいというような言い方もされているんですが、ちょっとそこら辺が詳しいことがわからないんですけども。

◎御田安全審査官（原子力安全・保安院）

基礎マットという言い方ですが、要するに原子力発電所の建っている建屋のこの位置です。マットというのはこの厚いところを言っております。この基礎マットの下、このところの部分ですけども、この部分にこのような形で活断層がないというようなことを、事業者はボーリング等を行って確認するとともに、我々もその結果を確認して、原子力発電所のこういう建屋の直下には、そういう原子力発電所に有害な断層がないという確認を設置許可の際に確認をしております。

そういう意味で言うと、敷地内には活断層でない断層というものは、このような位置に認められることもございます。柏崎刈羽発電所についても、こういうような形で α 断層とか β 断層とかV形とかF形とかというもので、基礎マットの下に認められる断層はございますが、それは活断層ではないということを確認しているものでございます。よろしいでしょうか。

◎新野議長

それはいずれまた、いろんな委員会での調査報告の中で必ずご説明いただけることだろうと思いますので、そういうことだそうですので、一応。

◎高橋（優）委員

先ほどちょっと触れたんですけども、6月17日だったか、毎日新聞の科学欄でちょっと触れていたの思い出したんですが、このときには原子炉圧力容器の劣化確認の方法に難があるんじゃないかという指摘がありまして、強震動を受けた地震の中で、安全上最も注目されているのは、やっぱり圧力容器じゃないかなと私は思っています。

特に圧力容器は五重の壁の中の究極の壁ですよ、言ってみれば。この究極、この壁というのは非常に合金で強靱だというふうに言われていますけれども、しかしこの軽水炉型の圧力容器というのは、非常に放射線をたくさん多量に受けていて、例えばこの毎日新聞によれば、1972年に運開した美浜の場合には、最小の温度は0度だったんですが、03年では78度まで上がっているというふうに言われています。しかしこれが例えば132度になった場合には破壊をするというのが、アメリカの原子力委員会の指摘というふうに行われているんですが。この場合、この試験片が圧力容器の中に10枚1組で置くように経産省令で義務づけられているわけですから、この辺の説明のアカウンタビリティというのは当然あるかと思っておりますので、開示していただければありがたいと思っておりますし、各号機の遷移温度ですね、脆性遷移温度の変化を教えてください

大事なことだと思っているものですからお願いしたいんですが。

◎新野議長

これもすぐお答えいただけるんでしょうけれど。

◎加藤審議官（原子力安全・保安院）

今、高橋委員からご指摘ございましたけども、この圧力容器の中性を浴びると脆くなる温度がだんだん高くなっていくという現象がございます。これは圧力容器を作っている炭素鋼ですけれども、それでも銅の含有率でその進み方の具合が異なるといったような状況があります。したがって、それぞれの原子炉ごとに試験片を入れて、ちゃんとその進み具合の、まず予測は予測式がちゃんとあって、予測式を使った予測と、それでは数年ごとにある程度の時間経過ごとにそのサンプルを取り出して、実際の破壊試験をやってみて、脆性遷移温度がどうかというのを確認していくということをさせているわけでありまして。

それでこの状況など、高経年化の技術評価の中などでも我々は当然、把握しておりますので、ちょっとそのデータの整理とかに時間がかかるかと思えます。担当のほうとよくそこは戻りまして、相談して対応したいと思えますけれども、いずれにいたしましてもそのような対応をちゃんとしておるところでございます。

また、多分ご指摘の記事では試験片の問題などが触れられていたかと思えます。この問題につきましても保安院、あるいはエネ庁時代からこの問題気がついておりまして、JNESなどに再生試験片の作り方の研究といったものをさせてきております。そういった成果を踏まえて、学会の規格で今具体的な技術的な詳細がまとまったものが出ましたので、それが国の基準を実現させる方策として適切なものかどうか、その評価をこれからやってまいります。必要であれば追加の条件を付して、そういった学会の規格を使わせるということでもあります。いずれにいたしましても、脆性遷移温度の問題、非常に炉の安全でも重要な問題でありますので、きちんと予測と実測に基づいて安全が確認されていることを、我々としても厳格に見ていきたいと思えます。

◎新野議長

ありがとうございます。今いろんな前の（２）のほうで専門的なこの議論は要らないんじゃないかというような、委員さんの要望とか意見もありますよね。今のように加藤さんのほうの言葉でのご説明のほうが私たちの会にはとても合うのかなと、お聞きして感じていたんですが。数字とか何とかというのはやっぱり専門委員会とか県の技術委員会のようなところで精査していただいて、それがどういう議論に結びついたのかを解説していただく程度でよろしいのではないだろうかと思うんですが、ほかの委員さんどうでしょうか。

でも数字出されてもわかりますか。大まかな数字で、数字が出ることで私たちのレベルで理解できるような数字は当然使っていただいて結構なんですけど、余り専門的に分析せねばならないような数字を表としていただいたところで、私たちにとっての議論には結びつくのかなという思いがあるので、どんなものですか。

◎高橋（優）委員

そうじゃなくて、安全解析上、我々が安心できる、脆弱するというのは加藤審議官は言われたことなわけですから、それがどの辺までが安全なのかということを知ることがは

大事なことじゃないかなと思いますので、その程度で構いません。私も新聞で言った程度のことしか言っていないわけですから。

◎新野議長

そうですね。そういうことなんですよ。あまり専門的な数字というよりは、どういうことなんだとか、今どういうところでこの調査、研究評価されているというような報告をいただければ、多分いいんだろうと思いますので。

あとは特にどなたか。吉野さんが最後でお願いします。

◎吉野委員

保安院さんにちょっと安全・安心のためにお聞きしたいんですけども、この地域のプルトニウム汚染の可能性の問題ということで、私が12年以上前に県の報告書を見たときには、それが出ているということ自体でショックを受けたんですけども、いろいろご説明というか聞くと、昔の核実験の降下物の死の灰によるものだということ、原発運転開始以来そんなに多く増えてきていることじゃないですけども、一応それで納得していたんですけども。今回、 α 放射体が出たということで、またちょっと心配になって、それで県の放射線監視センターとかの出されている調査の資料を読んでも、やっぱりちょっと心配な点が出てきまして、それは原発の排水口のすぐそばのところでは確かにこの十数年ですかね、20年ですか、とにかくそう顕著に増えていないということなんですけども、もう少し沖合の3キロとか4キロ沖合に行くと、それに従って2倍、3倍と高い濃度で出てきているという、そういうデータがあったりして、そういうのを見ると温排水というのは海水温度より6～7度温度が高いんで、比重が軽いから海面をぐっと油のように広がって行って、沖合のほうに、むしろ排水口のすぐそばよりも沖合に拡散して、高い濃度が出たりしているんじゃないかということが疑問が出てきたわけなんです。

私がそれをちょっと考えて、このような疑問を解決するためには全く原発に影響が考えられない地域、原発から物すごく何百キロも離れているというか、そういう地域での核実験によるプルトニウムの濃度といいますか、いわゆるバックグラウンドというか、背景の値がどれぐらいなのか知れば、それを差し引いて問題ないということがわかるんで。

そこで保安院さんにお聞きしたいのは、全国各地の核実験によるプルトニウム濃度についてのデータを持っておられましたら、海岸のそばとか、少し沖合とか、そういうのも含めて、あと陸地のももしあればですけど、無理だったらとりあえず海の中のそういうもとの核実験であるプルトニウムというのが全国どうなっているのか、それがわかれば柏崎のデータが安心できるかどうかということがわかるんで。それをぜひ保安院さんに次回でも教えていただきたいと思います。データがあるのかどうかということと、あったら教えてほしい。その二つをお聞きしたいと思います。

◎加藤審議官（原子力安全・保安院）

先日来、 α 放射体のことで皆さん非常に興味持たれているようでございますが、まず今のお尋ねに対しまして結論から申し上げますと、保安院は発電所周辺の放射性物質の濃度、これについては原子炉等規制法などに基づいて報告を受ける立場にありますが、あまねく日本全国のそういったプルトニウムなり何なりの濃度について測るということ

は、保安院の仕事ではありません。それは政府の中ではどこの仕事かという、また縦割りだといって怒られるかもしれないんですが、環境放射能については文部科学省が担当であります。

実は委員の皆様が9月に訪れる放射線医学総合研究所、ここは環境放射能の測定についても日本でトップレベルの能力を持っているところでもあります。実際、各県でも放射能の測定などをやっておりますけれども、その技術というのは原子力研究開発の歴史以来、放射線医学総合研究所で作られてきたものが大体使われているという状況でございます。そういったことでぜひ、放医研を訪問されたときなどに、ご専門の方から詳しく伺うのがよろしいのではないかと思います。

いずれにいたしましても、ご発言の中でもありましたように、日本国内で検知されますプルトニウムというのは核兵器、昔の大気圏内で核実験をやっていた時代のものが、いまだもってほんの少しこの環境中に存在しているというものであります。

◎新野議長

前田さん。

◎前田委員

今お三方、ご質問されていたんですけど、ちょっと私は苦言を呈したいんですけど、例えば中沢さんもさっき、もうあたかも既存事実のように活断層が直下にあるという言い方をされましたよね。それから先ほどの新聞のやつも脆弱なやり方をやっている、なんかそういう言い方をされました。温度が上がるのはわかるけど、そうじゃなくてその試験片をあたかも入れていないというような言い方をされましたよね、さっき。

◎高橋（優）委員

言っていません。それは義務づけられているわけですから。

◎前田委員

ああそうですか。じゃあ私の聞き方が悪かったのかも知れないけども、さっき私がちょっと長々とまとまらない言い方をしたんだけど、要するに結論ありきで質問されるときに、そういうふうに尾ひれはひれがついた、あたかも私は知らないから聞いたら、え、そうなのと、一瞬どっきりするわけ、正直言うけど。そのために数字を言っているとは思えないときが結構あるんですよ。私個人的な感想ですけど。それは私はいかななものかなという感じがしている。

それとちょっと武本さんが指摘されたけど、風評被害云々という言い方があるとするならば、先ほどの吉野さんの質問の中に「プルトニウムの汚染についてですが」というけども、え、汚染があるの、と思うじゃないですか。まさに風評被害を作り出している。ある意味で言えば。そんな自虐的なことをする必要はないと思うんで、私は。

◎武本委員

全然そんなことないよ。

◎前田委員

いやいやでもそう思いますよ、私なんか。え、そんなことがあるのって一瞬。

◎吉野委員

「可能性について」と言ったんです。

◎前田委員

だから、いやそれならいいけども、汚染についてと言われれば、プルトニウムの汚染があるのかと一瞬思うじゃないですか。

◎吉野委員

可能性についてデータから今まで安心していただけけれども沖合で…

◎前田委員

それはやっぱりもう少しそういう話として、私もびっくりするんで、言い方を考えていただければありがたいなと。

以上です。

◎新野議長

いろいろ発言の研究もまだまだですので、私も含めてみんなで勉強したいと思えますね。ありがとうございます。

じゃあ、質疑は一応これで今日は閉じさせていただいて、まだしばらく続きますけれど。委員さんもいろいろ苦しい中でご発言いただいたり、出席していただいているんですが、会の設立当初からのことですが、柏崎刈羽原子力発電所があそこの地に存在するというのを私たちは一応認めた上での活動をしているということ。それともう一つは経済活動なんかもとても大事なことで、私たちも住民ですので、必ずどこかの心の中にあるわけですが、バランスのいい本来は発言をすべき場所ではありながら、もともとの課題が安心・安全なものですから、推進している人には非常に発言が苦しいかもしれませぬけれど、住民の安心・安全はどういうふうにしたら保てるのかというような大枠の中での活動ということで、どうしてもやや厳し目の言葉がつかれることがあります。

メディアの方とかはそれをまた記事にされるわけですが、私たちが全く経済活動を考えないとか、そういうことでなくて、この場はある程度限定された内容の議論の場だということをちょっとまた頭に置かれて、きょうの発言を聞いていただくとありがたいと思います。ありがとうございました。

では議事は閉じさせていただいて、その他なんですけど、運営委員会では報告してあるんですが、たまたま明日なんですけど、観光の視点から、共同通信さんの研修旅行のようなことだろうと思うんですが、柏崎にお見えになるんだそうです。共同通信さんが契約というか、かかわっていらっしゃる全国のところのメディアの方たちが年に1度、いろんなところを視察されてきているんだだろうと思うんですが、新潟県で言えばたまたま新潟日報さんが対象のところだということで、新潟日報さんもおいでになるようなんですけど、明日は37社41名といったかな、視察にお見えで、これは柏崎観光協会のほうとタイアップした事業ですので、本来は観光の視察なんです。

でもメディアの方なので、発電所のとても大きいところがあり、大きな災害にもあったということで、地域の住民の方と少しの時間でいいからということで、本来企画がもうされていて、そういう時間はなかったところを無理に割いて、40分程度だろうと思うんですが、ちょっと時間的に厳しいんですけど、それでもそちらのメディアの方のご要望だということで、こちらの観光協会が何とか時間を割いて、地域の会の方が妥当

だろうということでご紹介いただいたので、そういうことでしたらお役に立てればということで、あちらが大人数、40何名ですので、私どもも全員で行くと大変なことになって時間が40分しかないものですから、じゃあ運営委員の時間のあく方ということで、明日は一応7名で、7名が全員多分話せないと思うんです。

でもやっぱり委員の代表でありますので、どういうことがそういうところでされるのかというのを近場でされるときには、ぜひ私は一人でも多くの方に見ていただいて、正当な活動をしているというふうに感じていただきたいということで要請しましたので、7名で明日出向いてきますので、また報告できることがありましたらいたしますので、前日報告で大変恐縮なんですけど、明日そういうことが夕方行われますので、よろしくお願ひします。視察は2日間だそうです。原酒造さんとか、そういうところいろいろ見て回られるんだそうで、復興途上のところとかも見学されると聞いております。

じゃあその他、事務局さんお願ひします。

◎事務局

それではその他の点で2点ほど。4点あったんですけども、2点、今会長さんのほうでお話しされましたので、2点お話をさせていただこうと思います。

1点目が委員さんの県外視察で、これは資料のほう、皆さんのお手元にございます。委員さんの方のみでございますけど、まだ概要という段階ですけれども、ちょっとお目を通していただきたいと思います。実施日は9月28日、29日の一泊二日、視察先は放射線医学総合研究所、それから東京電力株式会社さんの中央給電指令所、これは本社の中にございます。それから千葉火力発電所。

それから三つ目が原子力安全・保安院さんの緊急時対応センターというところでございます。バスを使って参ります。行程につきましては8時半にここ柏崎の広報センター、ここを出発をいたしまして、帰りはかなり強行軍でバスの中で食事をとっていただくというようなことをさせていただきますが、翌29日の夜9時にここに着くという予定でおります。

それで実施28日までのスケジュールですが、今日皆さんにこの概要をお渡しをさせていただきます。次の定例会、8月6日の日に詳細をご案内を差し上げたいと思います。それで9月3日の定例会のときまでに、参加・不参加といいますか、出席・欠席の連絡をいただきたいと、このように思っておりますので、よろしくお願ひしたいと、こう思います。

それでもう1枚おつけしたのは、視察に当たっての皆さんのご意見等々を文章にまとめました。企画書という格好になっておりますので、ご確認といいますか、お願ひをしたいと思います。

それから二つ目でございますけど、今後の定例会の日程と開催場所でございます。8月6日、それから9月3日、ともに第一水曜日でございますけど、ここ広報センター研修室、この場所でございます。ここを予定をいたしております。それから10月1日、こちらのほうは西山町のいきいき館、それから次の11月5日が刈羽村のラピカで定例会を行うという予定でおりますので、今日は口頭ですけれども、また近づきましたらペーパーでのご案内を差し上げたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

それから最後になって恐縮です。申しわけございませぬ。今日は相沢委員さんの席が

空いておりますけれども、今日急用ができて欠席ですという連絡を直前にいただいていたんですけれども、冒頭に皆さんにお伝えをしませんでした。申しわけございませんでした。無断欠席ではございませんので、お含みおきをいただきたいと思います。以上で事務局からのその他については終わりでございますので。

◎新野議長

ありがとうございました。視察の件なんですが、これだけのことを動かすにはやはりお金もたくさん要るんですけれど、皆さんがされている活動なのでとても地震後、かなりの活動量をしていただいていると私自身も考えていますし、大変なことをしていただいていると思っていますんですが、また視察があって、その直後にまた定例会が10月の頭にあります。本来人数から行けば中型バスが妥当なんだろうと思うんですが、今県の方に私の気持ちとして一生懸命お願いして、できれば翌日は代休を取れるような立場の方が1人もいないので、大型で何とか無事にみんな帰ってきたいということをお伝えしていますので、一人でも多くの委員さんからご出席いただけますように、まだ時間がありますので、何とか調整をしていただければと思います。よろしく申し上げます。

◎事務局

それでは予定をしましたといいますか、議事はすべて終わりになったかと思えます。21時15分を回ったところで終わりにさせていただきました。ありがとうございました。お気をつけてお帰りをいただきたいと思います。お疲れさまでございました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21：15閉会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・